

最盛期を迎える 首里城正殿復元工事(その2)

正殿復元工事の 赤瓦の設置が始まる

首里城正殿復元工事(工期..令和4年~8年)は、令和8年の完成を目指して、正殿を覆う「素屋根」の中で着々と進められています。

令和5年9月~12月に大径材の現地組立(軸組建方)・根・軒廻りの木工事による造作)が完了、現在(9月末時点)、屋根工事や内外部の造作工事等が進められています。

7月15日には正殿の象徴とも言える「赤瓦」の搬入、瓦葺き作業が始まりました。赤瓦は寄附金による「沖縄県首里城復興基金」を活用して沖縄県が調達し、正殿工事へ提供されるものです。県内4つの瓦工場で製造されており、沖縄県内で採れた「クチャヤ」と呼ばれる泥岩や赤土を主な材料としています。正殿では全部で約6万枚の赤瓦を使用し、令和6年末には瓦葺き作業が概ね完了する予定です。正殿赤瓦の組み方の詳細は、写真、図1を参照ください。



土居葺きに重ねる桟木の設置状況 (R6.7.4)



赤瓦設置開始直後(設置前の瓦が並べられた状況) (R6.7.17)



平瓦、丸瓦の設置(漆喰下塗り中)された状況 (R6.9.26)



野地板上への土居葺き作業の状況



平瓦の設置状況



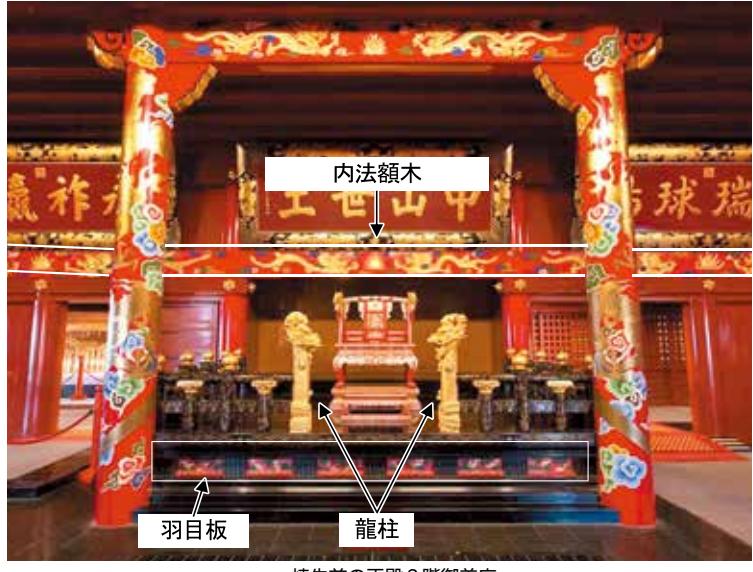
丸瓦設置後の漆喰下塗り作業の状況



瓦葺きの見本(原寸場で公開中)



図1 瓦の組み方(空葺き工法)の手順



沖縄県から納入された
2階御差床「龍柱」(上)、「内法額木」(下) (R6.9.17)



沖縄県から納入された 2階御差床「羽目板」(蒲萄と栗鼠等の彫刻) 左:拡大、右:全体 (R6.7.22)

お問い合わせ先
開発建設部 建設産業・地方整備課
☎ 098-866-1910

正殿復元工事においては、県内外の皆様からの寄附金による「沖縄県首里城復興基金」の一部を活用し、工事に用いる木材、瓦類（前述）、石材、彫刻類等を調達・納入することされており、これまで木材（大径材178本、造作材）、礎石、一部木彫刻類等が納入されています。令和6年度に入り、数々の木彫刻類が納入されており、6月11日に「懸魚」、7月22日に2階御差床「羽目板」、9月17日に2階御差床「龍柱」・「内法額木」が沖縄県から沖縄総合事務局へ引き渡されました。これら木彫刻は当局正殿復元工事において彩色や設置が行われます。

また焼物彫刻の龍頭棟飾や鬼瓦について、現在沖縄県が製作中で、令和6年度内には沖縄総合事務局へ引き渡される予定です。正殿完成へ向けて、今後、シンボリックな彫刻がお目見えすることになりますので、ご期待ください。

沖縄県首里城復興基金による取組状況



焼失前の首里城正殿



沖縄県から納入された「唐破風懸魚」(R6.6.11)



沖縄県が製作中の「龍頭棟飾」(R6.9)